

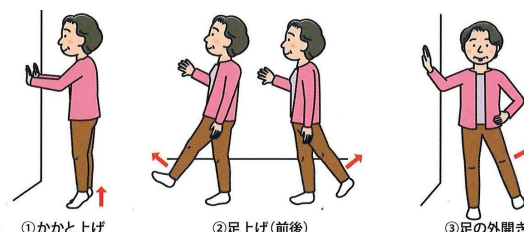
一人でできるセーフコミュニティ活動

一人ひとりが心がけ実践することが「安全で安心なまち」へつながります。



転倒を予防しましょう

- ・つまづかないために・・・カーペットなどの小さな段差や電気コードに注意しましょう
- ・すべらないために・・・床に新聞紙やレジ袋などを置かないようにしましょう
- ・ふらつけないために・・・起床時や起立時は、貧血にならないようゆっくり動きましょう
- ・もつれないために・・・お茶のみ体操などの運動をして筋力を維持しましょう



交通事故を予防しましょう

- ・車を運転する方・・・わき見運転による追突に注意しましょう
夕暮れ時は、早めにライトを点灯しましょう
セーフドライブプロジェクトに参加しましょう
- ・自転車に乗る方・・・ヘルメットを着用しましょう
- ・夜間に外を歩く方・・・明るい服装や反射材を着用しましょう



防犯対策をしましょう

- ・盗難に遭わないために・・・外出するときは、自宅に鍵をかけましょう
自転車に鍵をかけるときは、二重ロックしましょう
防犯カメラを設置して、地域の「目」を増やしましょう
- ・詐欺に遭わないために・・・電話で「お金の話」は詐欺です



災害に備えましょう

- ・非常持出品を用意しておきましょう（水・食糧・懐中電灯・ライトなど）
- ・災害時の避難場所や避難ルートを決めておきましょう
- ・地域の防災訓練に参加しましょう
- ・「ちちぶ安心・安全メール」を登録しましょう



見守り・声かけしましょう

- ・防災行政無線から見守り放送が聞こえたら、子どもの見守りにご協力をお願いします
- ・「虐待や徘徊かもしれない」と思ったら、窓口へ連絡しましょう
- ・「普段と様子が違う人」や「橋から飛び降りそうな人」がいたら、声かけをしましょう



ずっと住み続けたい“日本一安全・安心なまち”をめざして

セーフコミュニティちちぶ

～世界基準の安全・安心なまちづくり～

セーフコミュニティ活動の一例

街頭キャンペーン



交通安全キャンペーン



茶トレ講習会



チェーンソー取扱講習



秩父市セーフコミュニティのあゆみ

平成27年6月

認証取得に向けての現地審査を実施

海外（WHOセーフコミュニティ協働センター）の審査員による現地審査を実施

平成27年11月

セーフコミュニティ認証

平成28年3月

セーフコミュニティ推進条例の制定

将来にわたり、安全で安心なまちを持続していくため、議員提案による条例制定

令和3年7月

再認証取得に向けての現地審査を実施

コロナ禍により、令和2年度に予定していた現地審査をオンラインで実施

令和3年11月

セーフコミュニティ再認証式



◀ 秩父市セーフコミュニティ再認証式



▲ 再認証合意書

セーフコミュニティって何？

「ケガや事故は偶然に起こるものではなく、予防することができる」という考えのもと、地域のみなさん、行政、警察家庭、学校などが一緒になって「安全・安心なまちづくり」を目指す取り組みで、世界保健機関（WHO）が推奨する国際認証制度です。

どうして取り組むの？

セーフコミュニティの活動は、さまざまなデータを分析することにより見えてくる地域の課題を解決するために、「官」、「民」が連携・協働して取り組みを行います。そのため、秩父市にとってより有効で根拠のある取り組みを展開することができます。

どんな効果があるの？

- ①けがや事故が減るため、安全・安心が向上し、経済的損失（ケガの治療費）が減少します。
- ②統計データやアンケートを使って評価・検証・改善をするため、効果的に成果へ結びつきます。
- ③専門機関から認証されることにより、「安全・安心なまち秩父」として、イメージアップや経済的な効果（観光や定住したい人が増えるなど）が図れます。

セーフコミュニティの取り組み（抜粋）

秩父市では、データの分析結果やアンケート調査などを基に、安全・安心に関する7つの課題について対策委員会を設置し、高いレベルの取り組みを行っています。

犯罪の防止

秩父市内の犯罪件数は、国・県と比べると少ないですが、年間200件以上発生しており、中心市街地の犯罪発生率が高いことから、防犯パトロールの支援・強化、防犯カメラ及び作動中表示の設置の推進、鍵かけの啓発などを行っています。



地域での防犯パトロール

自殺予防

秩父市は、全国・埼玉県と比較し自殺の発生率が高く、市外からの自殺者も多いことから、自殺予防フォーラムの開催、投身自殺が多い橋等へ自殺予防標語入り看板の設置、ゲートキーパー養成講座の開催などを行っています。



自殺予防標語入り看板設置

災害時の安全

秩父市には、埼玉県内にある土砂災害警戒区域の約20%が存在しています。このため、災害時の避難計画図（逃げ地図）の作成支援、自主防災組織リーダーの養成、自主防災訓練の充実などを行っています。



避難計画図作成

交通安全

秩父市内の交通事故件数は減少傾向にあるものの、年間100件以上発生し、死亡事故も起こっていることから、子どもや高齢者を対象とした交通安全教室、反射材や自転車ヘルメットの着用・促進、交通事故防止街頭キャンペーンなどを行っています。



子どもの交通安全教室

子どもの安全

学校内での受傷や自転車での交通事故が多く発生し、また、乳幼児は自宅での受傷が多いことから、乳幼児の家庭内事故を予防するパンフレットの作成・配布、保育所での危険予測学習、学校内や部活動でのケガの防止などを行っています。



危険予測学習

高齢者の安全

自宅内での転倒によって救急搬送される高齢者が多いことから、家庭内での体操（お茶のみ体操）の普及、家庭内事故防止パンフレット作成・配布、ふれあいコール（見守り活動）の推進、サロン活動の充実などを行っています。



サロン活動の推進

自然の中での安全

近年の登山ブームに伴い、山岳遭難件数が増加しています。そのため登山者向けの安全キャンペーンや登山道の標識の整備などを行っています。また、サイクリングを楽しむ方への注意喚起、農林機械を使う方への安全講習会などを行っています。



安全登山キャンペーン